

京都府立大学共同体育館 に係る意見聴取

京都府文化施設政策監

1 府立大学共同体育館に係る検討状況について

- 府立大学体育館は、老朽化や耐震性の問題があり、現在、授業での使用を停止し、グラウンド上に設置した仮設体育館を利用している状況
- 建替に当たっては、「府立の大学」として、学生利用を大前提とした上で、多機能・多目的に活用できる新しい大学体育館のあり方について有識者をはじめ多くの方から意見聴取を実施

2 共同体育館整備に係る意見聴取会議の開催経過

第1回 令和4年 8月10日

議事 会議の設置及び運営について、共同体育館整備に係る経過、
課題、議論の方向性について

第2回 令和4年11月16日

議事 共同体育館整備に係る論点整理と方向性について

第3回 令和5年 4月26日

議事 共同体育館に係る整備内容の検討について

(参考)

○北山エリア整備に係るワークショップ

(令和4年11月27日、12月4日開催)

○共同体育館整備に向けた学生ワークショップ

(令和4年12月19日、令和5年2月16日、3月22日開催)

3 これまでの意見聴取会議におけるご意見

＜第3回会議までにいただいた委員意見＞

- ・既存の第2体育館を残して活用すれば、文化系クラブの要望も含めた学生が求める機能をかなり充足できるのではないか
- ・学生が求める程度の規模で、地域も活用できる方向性がいいのではないか
- ・ワークショップに参加しなかった学生や府民からの意見も考慮し、バランスを取りながら検討していく必要がある
- ・環境面や経営面、社会的な面から総合的に見て持続可能な施設となるよう、施設規模は慎重に見極める必要がある
- ・現段階で学生が望んでいるものは将来的にどのような体育館がいいのかという観点ではないので、IT環境の変化や研究との連携等も考えられるとよい
- ・学生や地域住民の想いに寄り添う施設が望ましく、競技団体が求める施設は別途検討できればよい
- ・多様性と調和に配慮した施設整備を行う際には、多くの方がそこに集えるようなアクセシビリティの確保が重要
- ・地震や水害等の災害時に地域の安全拠点となるような施設になるとよい

(参考) 第3回会議において情報共有した内容

府民WSでの意見	<ul style="list-style-type: none">・府民が気楽に使えるトレーニングルームや雨の日でも走れる場所などが欲しい・大学体育館なので規模や観客席は必要最小限でよい・災害時には避難場所等として機能できるようにしてはどうか 等
学生WSでの意見	<ul style="list-style-type: none">・競技面は現状よりもバスケットコート1面分が増える程度で十分。大規模な観客席は不要・武道関係のクラブや文化系クラブの活動場所について拡充してほしい

4 京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会について

＜設置目的＞

京都府におけるスポーツ施設のあり方について、スポーツ振興や行政経営等に関して優れた識見を有する専門家から多角的に意見を聴くために設置するもの

＜開催経過＞

令和5年度は、屋内スポーツ施設の整備についての意見聴取を現地調査含めて計4回実施（令和5年8月3日～11月10日）

＜意見聴取の内容＞

府内でスポーツ施設が不足している現状や、国際大会開催に必要な仕様などを踏まえた上で、現在、多様な活用方法を検討している京都府立大学と向日町競輪場を候補地としながら、意見聴取を実施

5 これまでのスポーツ施設のあり方懇話会で聴取した意見

<屋内スポーツ施設の現状について>

府内に屋内スポーツ施設が不足している状況の中、

- ・既存施設の老朽化が進んでいる
 - ・府内体育館の現状では国際大会の誘致は難しい
 - ・京都で大会を開催したいという声は全国的にも多くあるが、ほとんど実現できていない
- といった課題もあり、複数の委員から新設を求める意見あり

<主な論点>

国際大会、プロスポーツ	<ul style="list-style-type: none">・京都は体育館の整備が遅れており、競技団体同士で取り合いになっている・国際大会のレベルが上がると、付属施設の要求も上がるため、各競技の国際基準を確認の上、整備を実現していくべき
多機能・複合的	<ul style="list-style-type: none">・多機能化により経済的な観点と社会的な観点の両面で価値を生み出すことができ、周辺と複合的に整備することでまちづくりや地域活性化に繋がる・京都市は観光公害が起こっており、市内中心部にさらに賑わいを生む大規模な集客施設の整備は慎重に考える必要がある
賑わい創出	
地域の安心拠点	<ul style="list-style-type: none">・住民の理解が得られるよう、防災拠点でスポーツができるなどの発想の転換が必要
子どもたちの活動拠点	<ul style="list-style-type: none">・「する・見るスポーツ」を通じて、青少年の健全な育成につながるようなスポーツ施設にしていくべき
未来志向	<ul style="list-style-type: none">・通信環境や道路環境なども含め、未来を見据えて計画を立てる必要がある・持続可能な運営のためには、経済的と社会的価値の両面が重要
整備候補地	(P. 5～6 参照)

5 これまでのスポーツ施設のあり方懇話会で聴取した意見

<整備候補地に関連する意見①>

府立大学関連

(周辺環境)

- ・ 持続可能な運営という観点では、ライブやコンサートなどの興行で稼働率を上げ、収益を出す必要があるが、府立大学は学生中心であり、周辺環境も踏まえると難しい

(既存施設の状況)

- ・ 現地調査の際、手入れが行き届いておらず学生が気の毒という印象を持った。キャンパス整備とスポーツ施設の両方の整備が考えられるとよい

(運用面)

- ・ 3大学の利用に加えて競技団体まで利用することは運用上難しいのではないか
- ・ 京都市内は利便性が高いが、駐車場が少ない課題については検討が必要

(目指すべき方向性)

- ・ 府立大学は京都市内で利便性も良いので、幅広い方々に親しまれ、地域活性化にも繋がられる施設を検討してはどうか
- ・ 1万人規模のアリーナは難しいと思われるので、府大は学生と地域が交流できるスポーツ施設を目指すべき

5 これまでのスポーツ施設のあり方懇話会で聴取した意見

<整備候補地に関連する意見②>

向日町競輪場関連

(周辺環境)

- ・競輪場では周辺住民の理解を得る取組を続けてきており、新しい施設を受け入れる素地がある

(既存施設の状況)

- ・付帯施設も整備し、試合や興行のない日でも気軽に立ち寄れる場所になるのではないかと

(運用面)

- ・年間を通じて稼働率を高めて賑わいを創出していくことも十分に検討可能

(目指すべき方向性)

- ・敷地全体を使った多機能・複合的な施設整備を行い持続可能な運営を図るべき
- ・向日町であれば、1万人規模のアリーナについての議論を深めていけるのではないかと

整備地全般

- ・府域全体で既存施設も含めた全体最適を図る必要がある
- ・地域のコンセンサスが大事
- ・京都らしさについて考慮しながら文化芸術等での活用も含めて検討してほしい

6 第4回意見聴取会議における主な意見

- ワークショップ案（2千人規模）を学生意見としたい。年明けに教員の意見も聞いて、大学としての要望を府に出していきたい。
- 学生案は学生視点から実用的な案。地域や学生のスポーツ大会など、学生中心に範囲を広げられるとよい。学生意見をすべて盛り込むと予算が足りない可能性があるので、現実的な落としどころを探ることも必要。動線を考えて府大では1万人アリーナは難しいが、向日町では議論ができる。
- 府大体育館では競技団体が望むものを整備することは難しい。競技団体としては、府大体育館では学生のスポーツで使用するなど、特性を生かした使い方ができればありがたい。
- 学生意見を取り込むことができたことは大きな成果。トイレやシャワーなど、付帯施設もユニバーサルデザインが求められる。

6 第4回意見聴取会議における主な意見

- 地域に開かれた体育館とするために、具体的な運用の方向性も検討して欲しい。情報技術は進化していくので設備等は可変性を持たせた方がよい。
- 現在の問題解決のための体育館整備は近視眼すぎる。20～30年先を見据えて一度は大規模災害が起きることを想定して使えるものを検討すべき。地域の防災資源の一部を体育館で持つことや、耐震・耐水のインフラ整備が重要。
- ここで1万人規模は現実的でなく、教育機関としてスピード感をもって施設整備していくべき。地元木材の利用など、環境面で先進的な整備ができるとよい。
- 府大が主体となり、地域との関係等を考えていけるとよい。教員にも意見を聞き、共同体育館だけでなく、大学キャンパス全体を考えていく必要がある。
- 都計審に諮ると時間がかかるので、学校施設として用途変更が不要な範囲で進めるとよい。あり方懇や本会議など、外部委員会に外部委員会を重ねているが、府民・地域の方の意見も聞いていくべきである。

7 府立大学意見聴取結果

- ・ 学生ワークショップで検討された平面図を基本とした共同体育館を可及的速やかに設置いただきたい。
- ・ 大学の教育施設として整備・運営することが大前提であり、従来の利用時間や日数を確保した上で、多目的な活用の方向性や施設の規模等について整理し、整備を進めていただきたい。
- ・ 近隣住民をはじめ、府民に還元するため、地震や水害等の災害時に地域の安全拠点となるような施設の設置や災害備蓄庫の設置等について検討いただきたい。
- ・ 本学においても、「地域に開かれた大学」として、地域イベント等、府民に利用いただけるような運用を図ってまいりたい。

8 自治会、商店街、学校、福祉施設等からの意見聴取結果

- ・ 府民全体の健康増進を目的とした体育館になってほしい。
- ・ 一般の人が参加できるスポーツ教室があると嬉しい。
- ・ 大学の体育館は、学生を最優先にしてほしい。
- ・ 夏や冬は体育館で運動するのも厳しいため、冷暖房設備を使わせてほしい。
- ・ 共同体育館を地域の人も使えるようになるとありがたい。
- ・ 広い体育館の面積により年齢層を超えた活動が一体的にできるので、大学生と地域住民や子どもたちが 屋内スポーツ等活動を通じて様々な交流が生まれる。
- ・ 体育館の広さを活かして避難所機能を強化し、地域住民の安心安全も担保してほしい。
- ・ 工事期間中の安全対策等に留意してほしい。

9 本日の意見聴取について

意見聴取会議、府立大学、地元自治会などから
ご意見を伺ったところであり、本日もご参加の皆様
からも、御意見を頂戴したい